

## 令和6年度熊本市エイズ総合対策推進会議議事録(要旨)

開催日時:令和6年(2024年)10月22日(火)午後2時~4時

開催場所:ウェルパルクまもと1階 大会議室

出席委員:15名(敬称略、○は新任委員)

松下 修三、秋月 百合、田中 弥興、○塚原 みゆき、永野 智子、○榊 育代、  
梅田 隆弘、○片渕 美和子、松村 千恵子、○滝本 恵子、○濱部 純子、○泉 秀明、  
○飛松 佐和子、こうぞう、○今坂 洋志

欠席委員:5名(敬称略、○は新任委員)

○伊藤 隆史、○江上 公康、○別當 茉奈、村上 彩、川田 晃仁

### 次第

#### 1 開会

#### 2 所長挨拶

#### 3 委員紹介

#### 4 会長・副会長選出

委員からの自薦、推薦なし。事務局(感染症予防課)より会長に熊本大学 松下修三氏、副会長に熊本大学 伊藤 隆史氏を提案し、満場一致で承認された。

#### 5 会長挨拶

#### 6 講話「エイズの現状と課題」

熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター 臨床レトロウイルス学分野 特任教授 松下修三氏から、エイズ/HIV 感染症の基礎、発生動向、世界の最新情報などについてご講話いただいた。

### (質疑応答)

【片渕委員(熊本市青少年健全育成連絡協議会)】

PrEP(曝露前予防内服)は、とても良い方法だが、保険適用はどうか？

【松下会長(熊本大学)】

保険適用はない。薬剤の値段について議論されている。

【片渕委員(熊本市青少年健全育成連絡協議会)】

保険適用が出来たらいいと思う。ブラジルは？

【松下会長(熊本大学)】

ブラジルは無料。

【片渕委員(熊本市青少年健全育成連絡協議会)】

ブラジルはコンドームも無料で配り、それでエイズが増えなかったと聞いている。それくらい思い

切ったことをしないと。

【松下会長(熊本大学)】

保険適用はエイズ学会も要望している。

## 7 議事

議事進行: 松下会長

資料に沿って、事務局(感染症予防課)から説明

- (1) エイズ及び性感染症の発生動向
- (2) 令和5～9年度 HIV感染および性感染症の予防対策(計画)
- (3) 熊本市エイズ対策に関する令和5年度報告及び令和6年度計画

(質疑応答)

【塚原委員(市薬剤師会)】

12ページの令和6年度計画、研修会議の項目の青少年対策事業研修会は、10月27日と書いてあるが、24日の間違いではないか？

【事務局(感染症予防課)】

失礼しました。24日に訂正をお願いします。

【片渕委員(熊本市青少年健全育成連絡協議会)】

梅毒、その他の性感染症のグラフで、男性と女性を比べているが、これでは伝わらない。私が中学生に講話をする時は、年齢を5歳ごとに区切ったグラフにしている。そうすると、若い世代では、女性のほうがはるかに多い。男性が多いのは淋菌だけ。その他の性感染症は、若い人では女子が多い。しかもその子達は妊娠するかもしれない。そこが伝わってない。青少年に、もっと具体的に、身に迫っていることなんだ、とわかるように伝えないと。

【松下会長(熊本大学)】

性感染症対策において、何か抜本的な考えはあるか。doxyPEP といって、ドキシサイクリンの服薬により性感染症を予防する方法がある。日本では認められていないが、海外ではやっている国がある。このことにより、耐性菌が増えているかもしれない。こういった情報が、行政からは話が全く上がってこない。世界では非常に話題になっている。

行動変容を求めても、2割ぐらいの人は変えても、残りの人は行動を変えないから、性感染症の増加が止まらない。特に若い人たち。だから、性感染症にかからない、と言ったら、しかも安い薬だから、飲む人がいると思う。この前ペルーで開催された R4P(HIV 予防研究会議)でも、夏にミュンヘンで開催された国際エイズ学会でも、かなり話題になっていた。これは、新型コロナウイルス感染症で御存じのとおり、日本だけが大丈夫ということではなく、何処かでやっていたら、耐性菌が国内に入ってくることになる。だから、性感染症のことはもっと話題されるべきである。何らかの対策をやるべき時ではないかと思う。教育だけで、変えられる人は変えるけど、変えられない人のほう

が多いと思うから。

【片渕委員(熊本市青少年健全育成連絡協議会)】

教育の場では、あまり突拍子もないことは言えないため、上っ面だけになる。

今、性感染症学会のホームページに、SEX する前にどうしたらいいのかを載せようと話している。性感染症を予防するために、SEX する前に、口を洗う、手を洗う、性器を洗うなど、こういったことを、普通にやっていたら、それだけでもずいぶん違う。

HIV 感染に関しては、日本は男性同性間での感染が多い。しかし、どんな SEX も同じように危ない。こういう話をしても、私には関係ないよという人が多い感じがある。

よくLGBTQに関して、どう特別に対処したら良いのかと聞かれるが、普通でいい、と答えている。特殊に扱おうとする人達が多くて嫌だなと。みんな同じようにすれば良い。

【松下会長(熊本大学)】

そのとおりである。また、もう一つ言うと、きれいなパンフレットを作っているが、若い人は読まない。QRコードはピットするかもしれないが、こういうことの伝え方が難しくなっていて、漫画など、ぱっと見て心に残るようなもの、動かされるようなものが今のテーマだと思う。若い人は、勉強はするが、普段の生活では、こういうものを読んで学んで生活改善しよう、というような習慣はない気がする。色々な努力を行政もしているが、減らないのであれば、少し考えを変えるべき時かもしれない。

doxyPEP の手段は、多分来るだろうと思う。多様性と言っていいかわからないが、コンドームを使わない多様性、というのを認めざるを得ないのではないか。そういう人が悪いと言ったらもうどうしようもない。自業自得ではなく、他の方法があるということを示すべき時だと思っている。もっと英知を集めるべきである。今、統計をとると、doxyPEP をやったほうが性感染症の数は減る。しかし、「だから doxyPEP をやる」というのは正しくない。世界では、今後耐性菌が増えてきたらどうするか、というディスカッションがされている。

梅毒などの性感染症はワクチンがないということもあり、止めるのはなかなか難しい。さつき南米の話をしたが、コロンブスの時代から、この何百年かで、世界中でこんなに増えている。分かっているのに止められていないという状況。このことから、教育は効果はあるが、100%ではない、というか、多分 50%以下であることは、もう歴史上明らかだと思う。だから、色んな方法を使うべき時期が来ていると思う。

【秋月委員(熊本大学大学院教育学研究科)】

私が熊本に戻ってきて 10 年経つが、熊本に来てから、とにかく、他県と比べて人工妊娠中絶実施率が高いということと性感染症の感染率が高いことを言われ続けている。

問題はやはり研究者の中に予防、減らしていくという分野の研究者がいないことが 1 つ大きいと思う。

データとしてきちんと示していただいているので、例えば、この量的な数字だけでなく、受検者へのアンケートを深めてみてはどうか。なぜ受けようと思ったのか。どんな症状があったのか、など。浮気をした彼氏とそれを知らずに性行為をしてしまったから、などいろんな理由があると思う。いろんな媒体のきっかけ以外にその人がなぜ受検しようと思ったのかを質的にひとりひとり明らか

に出来たらよいのではないか。さらに、その結果によるアプローチをしたら、啓発につながるのではないかと思う。

また、例えば、定点報告を行っている医療機関にご協力をいただいて、先生たちにアンケートを取ることで、さらに質的な情報を集めることが出来、より効果的なアプローチが見いだせるのではないかと思う。別の会議で中絶が減らないということで、話し合っていたが、ある程度は減っても、それ以上はひとつひとつ分析しなければ厳しい、ということになった。

**【松下会長(熊本大学)】**

検査に来られた動機は、以前は聞いていましたよね。

**【事務局(感染症予防課)】**

今も検査後のアンケートで聞いている。保健所の方針として、検査に来られた方に、検査に来た理由をあまり根掘り葉ほり聞かない、というのがある。相談にはもちろん応じるが、こちらからは、あえて聞かないようにしている。あまり踏み込んできくと、保健所の検査の敷居が高くなり、検査に来づらくなってしまうため。

**【秋月委員(熊本大学大学院教育学研究科)】**

定点医療機関はずっと同じ医療機関なのか？それとも変わるのか？

**【事務局(感染症予防課)】**

ずっと同じ医療機関。定点医療機関に一度選定されると、閉院などない限り、ずっと定点医療機関である。定点医療機関の中には講師派遣事業でご協力いただいている先生もいらっしゃるのので、先生からお話を伺うことはあるが、定点医療機関を対象にそういうアンケートを取ったことはないの、今後検討してみたい。

**【松下会長(熊本大学)】**

では最後に、それぞれの先生方に一言ずつ、御意見、御質問、各団体での取組について御報告を頂きたい。

**【田中委員(市歯科医師会)】**

市歯科医師会では、機関紙等に松下先生のお話を参考に記事を掲載している。また、昨年、松下先生にご講義頂き大変勉強になった。今後も啓発、エイズ患者さんの歯科診療の一般化に対しても協力してまいりたい。

**【塚原委員(市薬剤師会)】**

薬剤師会としては、窓口で患者さんから御相談があれば積極的に相談にのり、治療・予防を勧めている。エイズから離れるかもしれないが、新型コロナ以前、数人の婦人科の先生、性教育を子供たちにしなければならぬと動いていらした先生方が、主に中学校、高校に働きかけをされていたが、学校側が断る、なかなか学校側が受け入れてくれないと言われてた。もしかしたら、スケジュール的な理由もあったのかもしれないが。やはり、市民に向けても、もちろん大事だが、子供たちにそういう話をする機会があるのなら、私たち大人、教師側が、受け入れる体制が必要だと思う。

**【永野委員(県看護協会)】**

看護協会では、助産師職の方々が小中高で命の大切さを伝える出前授業をしている。

昨日、熊本県が医療機関に検査を委託したというニュースを見た。今日の講話でも、検査の機会が増えれば発見率も上がる、ということだったので、身近なところで匿名で検査ができる体制作りが重要だと感じた。

また、研修会議ということで、保健所の方が研修を受けられているが、具体的に、相談業務でどういところが充実したのかなど次回に聞かせていただけたらと思う。

#### 【榊委員(県公立高等学校PTA連合会)】

私は、本日熊本県の公立高校のPTAの代表として参った、保護者の代表として述べさせていただくと、HIVに感染しても普通の生活が出来るということを初めて知り、しっかり理解することが出来て、参加させていただいて良かったと思う。あわせて、知る機会を増やしていかなければとも思った。私は、必由館高校の保護者だが、昨年熊本市の妊娠内密相談センターと必由館が連携して、プレコンセプションケアについて生徒達が調べてプレゼンする機会を作り、保護者、地域の方などと集まってグループワークをする機会があった。子供たちは、自分事としてとらえると、すごく色んな気づきとして考えると感じた。保護者として、子供たちと話し合う機会があれば色んなことをもっと共有できると思った。パンフレットも大事だが、座学で話を聞く、子供たちが自発的に自分事としてできる出前講座があると、自分事として考えることが出来るのではないかと思います。男の子も女の子もどちらも関係なく大事なことなので機会が出来ればいいなと思った。

また、YouTubeを生徒達に作ってもらうのもいいのではないだろうか？子供たちが作ると見る機会も増えるのでは、と思った。

#### 【梅田委員(市PTA協議会)】

本日は改めてHIVのことを学ぶことが出来た。報告書を見て、出前講座が2件ということなので、学校側ももう少し受け入れる体制があればいいと思う。

#### 【松村委員(県高等学校保健会)】

先ほどから学校の受入れの話が出ているが、学校はいろんな行事が多くあるので、いきなり入れることが難しい。色々な講演会を聞かせたい思いはあるが。

先ほど普及のところ、YouTube配信がいいのではないかという話があったが、今、小中学生とかでは、TikTokが1番の情報源になっている。情報が駄々漏れで流れてくるのを何となく見ている。その中には間違った情報もあるので、そこに、ちゃんとした情報、熊本市などでこういう検査が受けられますよ、とか、こういう症状があった時は病院に行ったほうがいいですよ、とか、そういう正しい情報を流れさせることが出来たらいいなと常々思っている。インスタグラムや、ツイッターの他にも手広くすると大変かもしれないが、また、ツイッターなどで、例えば熊本市の有名なタレントなど、影響力がある、みんなが見たくなるような方に啓発をやっていただくといいのではと思った。

#### 【滝本委員(熊本人権擁護委員協議会)】

私は人権擁護委員をしており、人権教室を幼稚園や小学校、中学校、高校、企業などで行っているが、こういう性に関することを、幼い時から、知識として、段階を踏んで啓発していくのはどう

だろうと思った。情報は少しずつ古くなるので、色んな DVD など新しく購入していかないといけない。今、「おしえて！くもくん」という絵本や紙芝居を幼稚園などに持って行っているが、プライベートゾーンというのも昔と違っている。エイズや性感染症のことも、本当は保護者、親が家庭の中でしないといけないことだが、日本人特有のあまり触れられないところがあると思うので、第三者、人権擁護委員も、そういう性教育に関しても、学校などで、専門家ではないが触りだけでもしていけるのかな、と感じた。

#### 【濱部委員(市民生委員児童委員協議会)】

初めて参加し、今日の松下先生のご講話、そして熊本市のたくさんの資料を拝受し、私を知り得たなど。正しく知り得ないと、自分たちも民生児童委員として啓発ができない。まずは自分の学びからだ、本当に心から感じた。民生児童委員として、地域の命の見守りをしている。いろいろな生活の背景の中で、青少年の皆が、本当に苦勞している。ヤングケアラーなど、子供たちは一生懸命生きている。私も、地域で、命の見守りをしながら、どんなふうに寄り添ったらいいのか、一緒にどんなふうに歩いたらいいのかを毎日模索している。例えば障がいのある方が、大人の年齢になりお付き合いをするときに、そのお母さんにつながっていることで、命を粗末にしたり、病気になるって後悔をしないように、お母さんと話をしながら、私は一緒に歩いている。

民生児童委員の皆で、こういう啓発をしながら、地域で命の見守りをしっかりやっていき、そして、未然に防げるところはしっかり伝えていきたいと思う。

#### 【泉委員(連合熊本地域協議会)】

本日、初めて参加し、講話の中で、エイズの歴史の話があったが、恥ずかしながら、私の知識も20年前30年前の知識で止まっていたことを発見し、今日ひとつ勉強になったと思っている。その中で、治療し、続ければ、感染しないという、U=U、を勉強したので、私たちの組織は多くの労働組合の集まり、集合体ということなので、組織を通じて組合員たちに周知をしていきたいと思った。先生のお話の中で、感染された方が社長に相談したが解雇されたという話があったので、労働団体として、そういったことがないように、周知を徹底していきたいと思った。研修や講演など、先生や色んな団体と連携していければいいなと思った。

#### 【飛松委員(熊本日新聞社)】

今日は色々と勉強させていただいた。ひとつ宿題を頂いたと思っているところがある。熊日新聞では毎週、感染症情報を載せている。性感染症だけではないが。この情報は感染者数、結局数字である。毎週私もデスクをしているが、先週と比べて、こうなんだ、こうなんだ、と。私たちが一番思うのは、数字から数字ではなく、その人に肉薄できるかというところ。検査に来た方々が、どう思うかで、どういう動機で来られるのか、そこの匿名性を無くすという所はやはり、皆に刺さるニュースになっていく。そこを努力していかなければと思っている。

また、12月1日は世界エイズデーということなので、それに合わせて、松下先生に何か書いていただけないかと今、少し思っている。

#### 【こうぞう委員(Safety Blanket)】

ゲイの当事者として何か、どういう視点で、お手伝いができるかと考えたが、今、他の委員の方が

言われたように、やはり学校教育であったり、男性同性愛者だけでなく女性に対しても、身近な病気の問題なんだということを啓発していただく、教育していただくということは、HIV/エイズは男性同性愛者の病気だというスティグマを薄めていく、無くしていくために、非常に重要な視点と  
思っている。

それと同時に、やはりHIV/エイズという病気の感染経路、特性としては、やはり男性同士の性的接触で感染する割合が高いという、ハイリスク層が存在するということも見ないことにはいかないような病気でもあるので、そこに当事者としてどのようにアプローチが出来るかということも、自分の中の課題だと思っている。

以前から、保健所の方にはお伝えしているが、やはりゲイの同性愛者の人たちが、どういう場で日常で出会うのかというと、同性愛者ゲイの出会い系のアプリであったり、近年、SNSでの出会いというのも多くなってるかなと思っている。そういうところへのピンポイントでの広告、多分予算編成の問題で難しいと言われてるのかと思うが、やはり検査数を増やす、感染を防いでいくという意味では、そこは難しいと言わずに、どうにかその広告をピンポイントで出来るように予算をつけることを一緒に考えていきたい。近年自分はなかなかゲイバーに行くことが生活上少なくなってきたが、去年1度行ったときに、啓発物、松下先生も話されたが、文字ベースの物はきちんとしたことが書いてあるけどみんな見ないと、いうこともあり、やはりコンドームなどを配布してもらったほうが実際ゲイ当事者に配布したり、少なからず他の感染症予防にも繋がるというような答えもあったので、コンドームにQRコードを付けて、さっき意見で出たような、今やっぱり響くもので、ショート動画、きちんとした文字の羅列よりも短い動画で、感情的に訴求するような方法というのも工夫していくなど。また、他に、検査の情報、保健所や個人の病院や郵送検査、PrEP の情報、などにたどり着けるような情報提供方法というのを一緒に模索していただきたいと思っている。もし、そういった調査や動画の作成などの予算の問題があれば、他の地域との協働、東京であればakta やプレイス東京などの団体が積極的に資材を作られていると思うので、自治体を跨いでの連携というのは難しい部分もあるかと思うが、そういった部分でも協働していける部分があるか  
思っている。

現状としても、80年代90年代に比べると、同性愛者の病気っていう見方は減っているのかなと思うが、現状でもやはり、HIV/エイズに感染したかもしれない、感染したという当事者の内情としては、自分が感染したということで同性愛者だということがばれる、という恐怖心というのはまだ非常に大きいものがあると思うので、その部分も考慮した、情報の提供というのも必要になってくるか  
思っている。引き続き協力をお願いしたい。

#### 【今坂委員(ともに拓くLGBTQ+の会くまもと)】

性的マイノリティの自助グループに関わっているが、この問題では、まず、人間の性に関する理解があるかないか、という、行動のパターンが随分変わってくると思う。特に若い人においては、小中高などの学校現場でこの問題を扱うと、非常に効率的に扱えるので、そういうところも活用しながら、必要な情報、必須の情報を伝えていくということと、自分はどうなのかという、考える機会を作っていくということで、実際に、行動変容、あるいは、リスクの低い行動を選択する価値観、考

え方が育っていければいいなと思っている。

**【松下会長(熊本大学)】**

様々な課題があり、これはエイズが一つきっかけにはなっているが、皆さんが言われたように、性行為や性衝動は、皆が通るものだから、正しい知識と、どういうリスクがあるかについて、自分事として考えていく道筋を考えることが大切である。教育は行われているけれど、教科書に人権をきちんと尊重すべきであると書いてはあるが、やはり学校の先生方にだけをお願いするのは大変なので、色々な、人権教育をやっている人など色々な先生がいるから、皆の力で、地域の子供たち、若い子たちを、小さい頃から教育していくのが大事である。諸外国では行われているが、日本はやはりタブーがまだ残っている気がする。

熊本は、今、市長も知事も、若返ったので、そういう人権教育とリンクした格好でのLGBTQあるいは多様性の性の多様性の教育というのをやっていくと、先見の市になるのではないかと今思った。これは、この部署だけでは無理なので、熊本市の中でも性感染症が増えていることに関するリンクとして、子供たちの教育あるいは青壮年ぐらまで、そういう方々への教育やピアカウンセリングなど、少し新しい取組を出来たらいいと思った。建設的な方向で、予算はないかもしれないが、ぜひ、何か始めないと駄目ということが私の今日の感想。性感染症に関して、若い人たちのグループなどに色々なアイデアを出してもらうのも一つの手だと思う。

委員の皆様、貴重なご意見をありがとうございました。今後ともご協力をお願いいたします。

これにて、議事を終了します。事務局と変わります。

**【事務局(感染症予防課長)】**

本日は長時間に渡り、色々な御意見を頂きありがとうございました。本会議については、ここで何かを決めるものではなく、色々な関係団体の方に御出席頂き、色々な御意見を頂いて、みんなで今後の取組について考えていくというシステムである。本日、色々な御意見を頂き、特に広報啓発に関して、まず出来ることからということで、予算がなくても出来ることから、もちろん必要なものに関しては当然予算を確保して、委員の皆様にも御相談させていただきながら、いろんな対象者に響くような広報に特に力を入れていきたい。

**8 閉会**